

地区計画ガイド

50 錦ヶ丘北地区（青葉区）

地区計画 の目標

本地区は、ＪＲ愛子駅の南方約２kmに位置する住宅団地であり、民間により開発が進められた地区である。

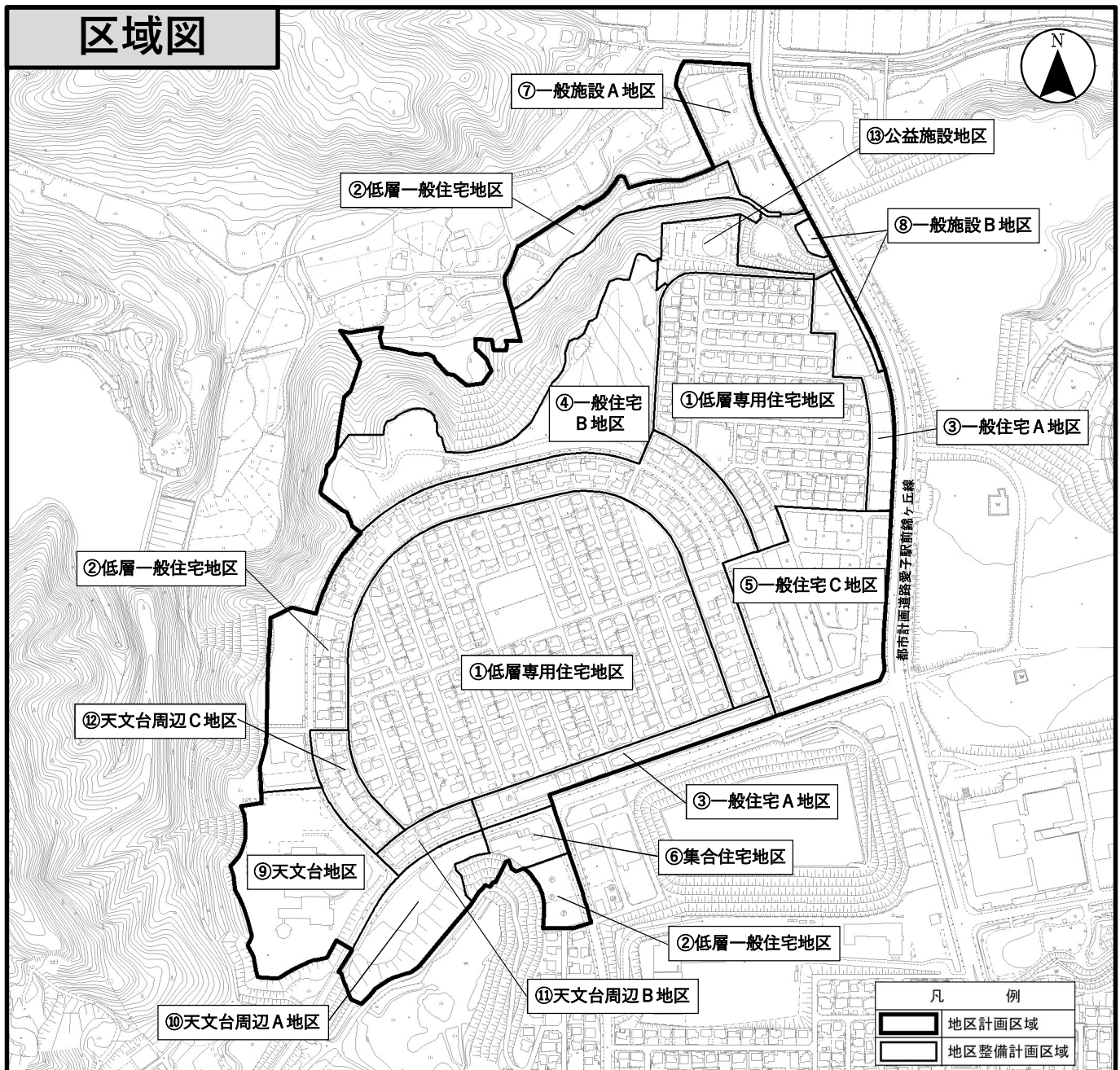
地区計画を導入することにより、本地区における街づくりを適正な方向に誘導し、良好な居住環境の形成及びその将来にわたっての維持・増進を図ることを目指すものである。

決定日 H11.6.7（仙告第327号）

最終
変更日 R7.6.24（仙告第378号）

【地区計画ガイド更新日：R 7. 6. 24】

区域図



地区計画ガイドは地区計画の概要を示したものです。
地区計画ガイドとあわせて「仙台市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例」をご確認ください。

仙台市の都市計画や土地利用の規制等に関する情報を、インターネットで検索できます。
下記のアドレスまたは右側のQRコードからご利用できます。
https://www2.wagmap.jp/sendai_tokei/



地区計画とは

地区計画制度は、地区の特性に応じた良好な市街地を形成していくために、住民の総意に基づき、地区に必要な道路や公園などの配置や建築物の用途、高さ、壁面の位置、敷地面積、容積率、建ぺい率、かき・さくの構造や建築物の形態・意匠の制限等を、その地区のルールとして定めることができる制度です。

本地区では、以下の方針に基づくまちづくりを進めるため、建築物等への制限を定めております。（ただし、⑬公益施設地区は土地利用方針のみ定めており、建築物等への制限は定めておりません。）

■土地利用方針

地区整備計画名	土地利用方針
①低層専用住宅地区	閑静で落ち着いたある一戸建の専用住宅地の形成を図る。
②低層一般住宅地区	一戸建の専用住宅を主体とした閑静で落ち着いたある居住環境の形成を図る。
③一般住宅A地区	周囲の一戸建住宅との調和を図りながら共同住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
④一般住宅B地区	周辺環境との調和を図りながら住宅と福祉関連施設を複合的に配置し、多世代が交流可能な居住環境の形成を図る。
⑤一般住宅C地区	周囲の一戸建て住宅地と調和した低中層住宅や、日常生活利便施設の立地による持続可能な居住環境の形成を図る。
⑥集合住宅地区	周辺環境との調和を図りながら中高層の共同住宅を主体とした住宅地の形成を図る。
⑦一般施設A地区	周辺環境との調和を図りながら日常生活利便施設や福祉関連施設を主体とした施設の立地を図る。
⑧一般施設B地区	周辺環境との調和を図りながら日常生活利便施設や福祉関連施設を主体とした施設の立地を図る。
⑨天文台地区	天文台を主体とした施設の立地を図る。
⑩天文台周辺A地区	天文台の環境との調和を図りながら店舗等や低層共同住宅を主体とした立地を図る。
⑪天文台周辺B地区	天文台の環境との調和を図りながら一戸建住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
⑫天文台周辺C地区	天文台の環境との調和を図りながら一戸建住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
⑬公益施設地区	地域住民のための水道施設の立地を図る。

■建築物等への制限（各地区整備計画により、定められている制限項目は異なります。）

制限項目	目的
用途の制限	地区の目指すまちづくりにそぐわない建築物等の用途を規制することにより、その地区にふさわしい建築物等の立地の誘導を図る。
敷地面積の最低限度	敷地面積の規模を制限することにより、敷地の細分化による居住環境の悪化を防止し、ゆとりのある敷地の利用を図る。
壁面の位置の制限	道路や隣地から建築物等を後退し空地を確保することにより、周辺への圧迫感を和らげ、良好な環境の形成を図る。
高さの最高限度 又は最低限度	建築物等の高さを制限することにより、高さの揃った街並みの形成や、土地の高度利用の促進を図る。
形態又は色彩 その他の意匠の制限	建築物等の屋根や外壁などの色、かたち、仕上げ等を制限することにより、特色のある街並みの形成や保全を図る。
垣又はさくの構造の制限	垣やさくの高さ、材料、かたち、色等を制限することにより、緑化の促進や塀の種類や高さを制限し、良好な景観の形成や保全を図る。

※各地区整備計画の制限内容はP4以降をご覧ください。

■地区整備計画で定められる制限（例）



地区計画の届出について

■地区計画の届出とは

- ・建設工事等に先立ち、仙台市が事前に計画内容を審査し、その適合性を確認することにより、地域の皆様が主体となって定めたまちづくりルール（地区計画）の実現を図っていくものです。
- ・地区整備計画が定められた区域内で以下の行為を行う場合は、工事に着手する30日前までに下記担当窓口へ届出を行う必要があります。

■届出が必要な行為（都市計画法第58条の2）

届出が必要な行為	内容
建築物の建築又は工作物の建設	建築物を新築、増築、改築、移転する場合 工作物（垣・さく、門・塀、擁壁、屋外広告物等）を建設する場合
建築物等の形態又は色彩その他意匠の変更	地区計画で建築物等の形態又は色彩その他意匠の制限が定められている区域で、これらを変更する場合
木竹の伐採	地区計画で樹林地等の保全に関する事項が定められている区域で、木竹の伐採をする場合
土地の区画形質の変更	道路や宅地の造成、土地の切土・盛土を行う場合

※建築物等の用途の変更を行う場合は、届出が必要となる場合がありますので、各区役所街並み形成課までご相談ください。

■届出が不要な行為の例（都市計画法施行令第38条の5）

- ・既存の建築物等の管理のために必要な土地の区画形質の変更
- ・開発許可が必要な土地の区画形質の変更
- ・仮設建築物の建築又は仮設工作物の建設
- ・屋外広告物で表示面積が1㎡以下であり、かつ、高さが3m以下であるものの表示又は掲出のために必要な工作物の建設

■よくある質問

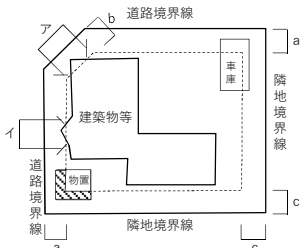
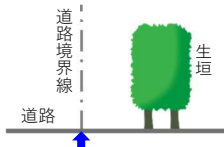
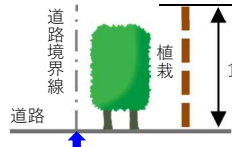
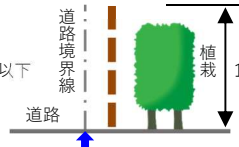
- Q 1 住宅を新築した際、建物の届出時には外構が未定であったため、「垣又はさくの構造」を未定のまま届出を提出した。建物完成後、外構（垣・さくなど）が決定した場合、届出をする必要はあるか。
- A 1 「工作物の建設」に該当する場合は、新たに「地区計画の届出」を行う必要があります。
- Q 2 建物完成後、確認申請が不要である建築物を新たに建築する場合、届出をする必要はあるか。
- A 2 「建築物の建築」に該当するため、新たに「地区計画の届出」を行う必要があります。
- Q 3 建物の新築時に植えた生垣が枯れたため、新たな生垣を設置しようとする場合、届出をする必要はあるか。
- A 3 通常の管理行為であるため、「地区計画の届出」の必要はありません。通常の管理行為か否かの判断が悩ましい場合は、担当窓口までご相談ください。
- Q 4 地区計画の届出後（建物が完成する前の段階）に、建築計画の変更があり、届け出た内容に変更が生じた場合、「変更届出書」を提出する必要があるが、変更箇所が地区計画で制限されていない項目でも、「変更届出書」を提出する必要があるか。
- A 4 「変更届出書」は、届出内容に変更があった場合に必要となるため、制限の有無に関わらず、届け出た内容に変更があった場合には、「変更届出書」を提出する必要があります。
- Q 5 土地利用方針のみが定められた区域内で、建築物の建築又は工作物の建設の行為を行う場合、届出をする必要はあるか。
- A 5 「地区計画の届出」を行う必要はありません。

お問い合わせ先

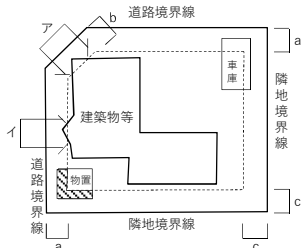
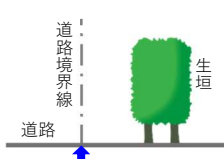
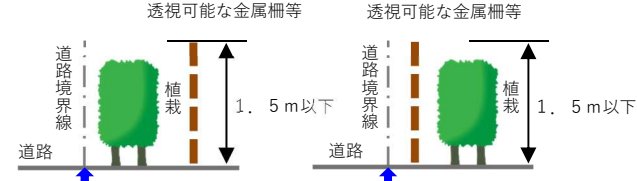
地区計画の届出、制限内容の確認、建築相談に関すること・・・ 各区役所 街並み形成課
青葉区 022-225-7211(代表) 宮城野区 022-291-2111(代表) 若林区 022-282-1111(代表)
太白区 022-247-1111(代表) 泉区 022-372-3111(代表)

地区計画等の都市計画に関すること・・・ 都市整備局 都市計画課 022-214-8295

制 限 表

整備計画名	① 低層専用住宅地区
土 地 利 用 方 針	閑静で落ち着いたある一戸建の専用住宅地の形成を図る。
用 途 の 制 限	下記の建築物以外は建築できません。（警察官派出所等を除く。） ア 住宅（専らその用途に供する建築物及びこれに附属する建築物に限る。） イ 集会所
敷 地 面 積 の 最 低 限 度	200㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての緑道（隅切を除く。）…1.5m以上 - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての緑道の隅切…1.3m以上 - すべての隣地（緑道を除く。）…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア+イが3m以下のもの ③  部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車車庫を除く。） 
形 態 又 は 色 彩 そ の 他 の 意 匠 の 制 限	道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。
垣 又 は さ く の 構 造 の 制 限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。 ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 透視可能な金属柵等  透視可能な金属柵等 
用 途 地 域 (容積率/建ぺい率)	第1種低層住居専用地域（60%/40%）

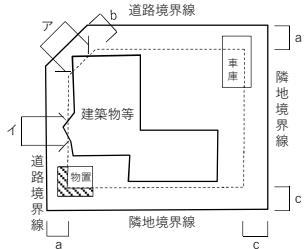
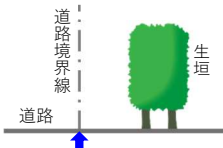
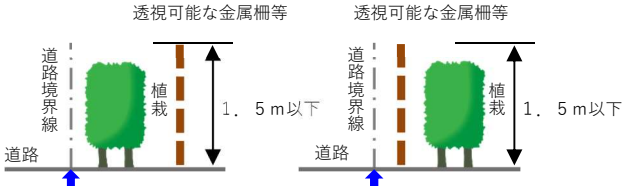
制限表

整備計画名	② 低層一般住宅地区
土地利用方針	一戸建の専用住宅を主体とした閑静で落ち着いたある居住環境の形成を図る。
用途の制限	下記の建築物（専らその用途に供する建築物及びこれに附属する建築物に限る。）以外は建築できません。（警察官派出所等を除く。） ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋 エ 老人ホーム、保育所、福祉ホームその他これらに類するもの オ 老人福祉センター、児童厚生施設その他これらに類するもの カ 診療所
敷地面積の最低限度	200㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての緑道（隅切を除く。）…1.5m以上 - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての緑道の隅切…1.3m以上 - すべての隣地（緑道を除く。）…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア+イが3m以下のもの ③ 図中斜線部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車車庫を除く。） 
形態又は色彩その他の意匠の制限	1. 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 2. 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 (1) 美観・風致を害さないものであること (2) 自己の用に供するものであること (3) 表示面積の合計が1.0㎡以下であること
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 
用途地域（容積率/建ぺい率）	第1種低層住居専用地域（60%/40%）

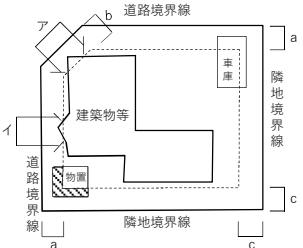
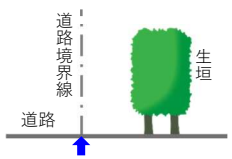
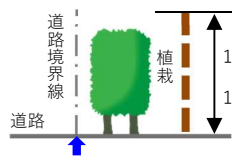
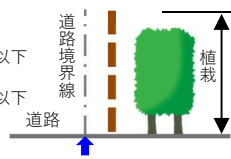
制限表

整備計画名	③ 一般住宅A地区
土地利用方針	周囲の一戸建住宅との調和を図りながら共同住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 工場（店舗等の内に附設される作業場を除く。） イ ポーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場又はバッティング練習場 ウ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの エ 自動車教習所 オ 畜舎
敷地面積の最低限度	200㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての緑道（隅切を除く。）…1.5m以上 - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての緑道の隅切…1.3m以上 - すべての隣地（緑道を除く。）…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア+イが5m以下のもの ③ 図部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.5 m以下のもの（自動車車庫を除く。）
形態又は色彩その他の意匠の制限	1. 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 2. 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 (1) 美観・風致を害さないものであること (2) 自己の用に供するものであること (3) 表示面積の合計が2.0㎡以下であること
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.8 m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣 ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの
用途地域（容積率/建ぺい率）	第2種住居地域（200%/60%）

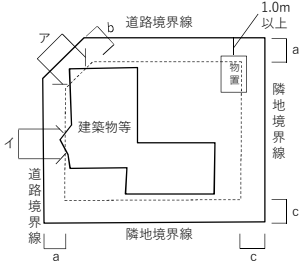
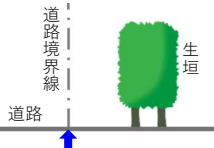
制限表

整備計画名	④ 一般住宅B地区
土地利用方針	周辺環境との調和を図りながら住宅と福祉関連施設を複合的に配置し、多世代が交流可能な居住環境の形成を図る。
敷地面積の最低限度	165㎡ (警察官派出所等を除く。)
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての緑道（隅切を除く。）…1.5m以上 - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての緑道の隅切…1.3m以上 - すべての隣地（緑道を除く。）…1.3m以上（c） 緩和規定 - 自動車車庫 - 図ア＋イが5m以下のもの - 斜線部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.5m以下のもの（自動車車庫を除く。） 
形態又は色彩その他の意匠の制限	- 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 - 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 - 美観・風致を害さないものであること - 自己の用に供するものであること
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 
用途地域 (容積率/建ぺい率)	第1種中高層住居専用地域（200%/60%）

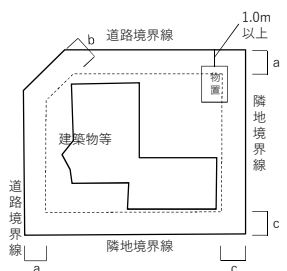
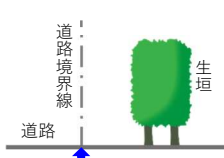
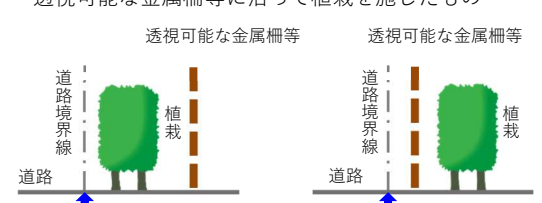
制 限 表

整備計画名	⑤ 一般住宅C地区
土 地 利 用 方 針	周囲の一戸建て住宅地と調和した低中層住宅や、日常生活利便施設の立地による持続可能な居住環境の形成を図る。
用 途 の 制 限	下記の建築物は建築できません。 ア 工場（店舗等の内に附設される作業場を除く。） イ ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場又はバッティング練習場 ウ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの エ 自動車教習所 オ 畜舎
敷 地 面 積 の 最 低 限 度	200㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての緑道（隅切を除く。）…1.5m以上 - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての緑道の隅切…1.3m以上 - すべての隣地（緑道を除く。）…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア+イが5m以下のもの ③ 図ハ部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.5m以下のもの（自動車車庫を除く。） 
形 態 又 は 色 彩 そ の 他 の 意 匠 の 制 限	- 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 - 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 (1) 美観・風致を害さないものであること (2) 自己の用に供するものであること
垣 又 は さ く の 構 造 の 制 限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下（ただし、都市計道路愛子駅前錦ヶ丘線及び都市計画道路錦ヶ丘西線に面する部分は高さ1.8m以下）の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。 ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 透視可能な金属柵等  透視可能な金属柵等 
用 途 地 域 (容積率/建ぺい率)	第2種住居地域（200%/60%）

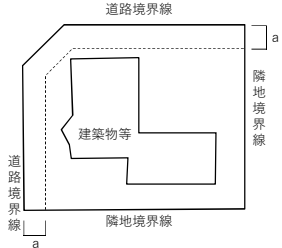
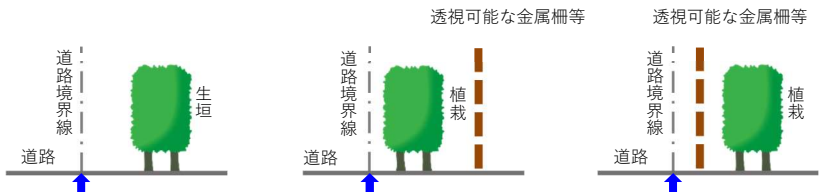
制 限 表

整備計画名	⑥ 集合住宅地区
土 地 利 用 方 針	周辺環境との調和を図りながら中高層の共同住宅を主体とした住宅地の形成を図る。
用 途 の 制 限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 工場 エ ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場又はバッティング練習場 オ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの カ カラオケボックスその他これに類するもの キ ホテル又は旅館 ク 自動車教習所 ケ 畜舎 コ 店舗等
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.2m以上（a） - すべての道路の隅切…1m以上（b） - すべての隣地…1m以上（c） 緩和規定 - 図ア+イが5m以下のもの - 物置その他これに類する用途に供する建築物で、その外壁等の面が敷地境界線より1m以上離れたもの 
形 態 又 は 色 彩 そ の 他 の 意 匠 の 制 限	道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。
垣 又 は さ く の 構 造 の 制 限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。 ただし、階段や自動車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・ 生垣  ・ 透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 
用 途 地 域 (容積率/建ぺい率)	第2種住居地域（200%/60%）

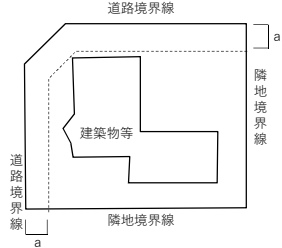
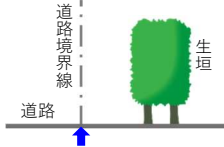
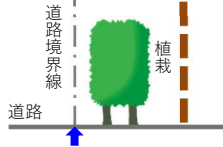
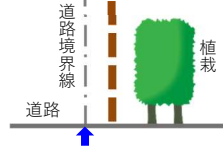
制限表

整備計画名	⑦ 一般施設A地区
土地利用方針	周辺環境との調和を図りながら日常生活利便施設や福祉関連施設を主体とした施設の立地を図る。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 1階を共同住宅、寄宿舎又は下宿の用途に供するもの（共有部分を除く。） エ 1階を長屋の用途に供するもの オ 工場（店舗等の内に附設される作業場を除く。） カ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの キ 自動車教習所 ク 畜舎
敷地面積の最低限度	1,000㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての緑道（隅切を除く。）…1.5m以上 - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての緑道の隅切…1.3m以上 - すべての隣地（緑道を除く。）…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 物置その他これに類する用途に供する建築物で、その外壁等の面が敷地境界線より1m以上離れたもの 
形態又は色彩その他の意匠の制限	- 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 - 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 - 美観・風致を害さないものであること - 自己の用に供するものであること
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。 ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 
用途地域（容積率/建ぺい率）	第2種住居地域（200%/60%）

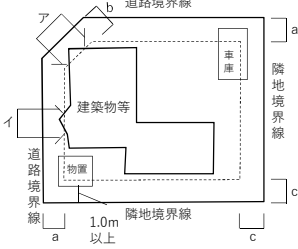
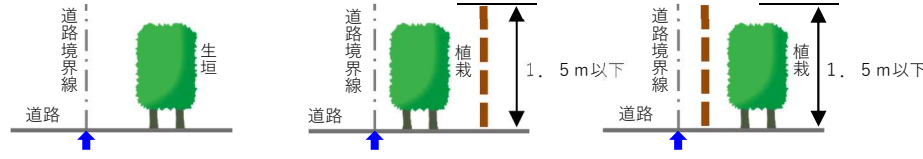
制 限 表

整備計画名	⑧ 一般施設B地区
土 地 利 用 方 針	周辺環境との調和を図りながら日常生活利便施設や福祉関連施設を主体とした施設の立地を図る。
用 途 の 制 限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 1階を共同住宅、寄宿舎又は下宿の用途に供するもの（共有部分を除く。） エ 1階を長屋の用途に供するもの オ 工場（店舗等の内に附設される作業場を除く。） カ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの キ 自動車教習所 ク 畜舎
敷 地 面 積 の 最 低 限 度	200㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路…1.2m以上（a） - すべての緑道…1.2m以上 緩和規定 ① 物置その他これに類する用途に供する建築物で、その外壁等の面が敷地境界線より1m以上離れたもの 
形 態 又 は 色 彩 そ の 他 の 意 匠 の 制 限	- 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 - 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 - 美観・風致を害さないものであること - 自己の用に供するものであること
垣 又 は さ く の 構 造 の 制 限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。 ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣 ・透視可能な金属柵等 
用 途 地 域 (容積率/建ぺい率)	第2種住居地域（200%/60%）

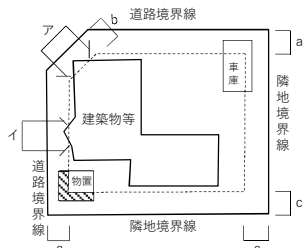
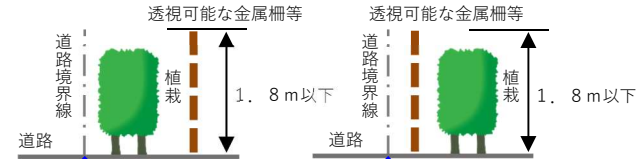
制限表

整備計画名	⑨ 天文台地区
土地利用方針	天文台を主体とした施設の立地を図る。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 老人ホーム、保育所、福祉ホームその他これらに類するもの エ 老人福祉センター、児童厚生施設その他これらに類するもの オ 病院 カ 診療所
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路…5m以上（a） - すべての隣地…5m以上 
形態又は色彩その他の意匠の制限	周辺の自然環境との調和に配慮した建物デザインや色彩計画とする。
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 透視可能な金属柵等  透視可能な金属柵等 
用途地域 (容積率/建ぺい率)	第2種中高層住居専用地域（200％／60％）

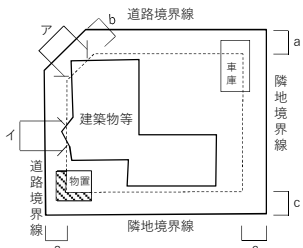
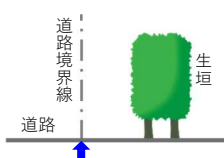
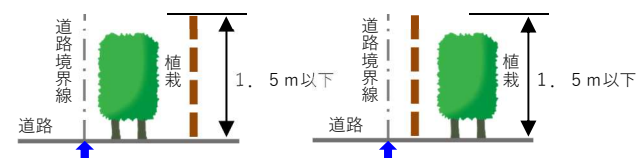
制限表

整備計画名	⑩ 天文台周辺A地区
土地利用方針	天文台の環境との調和を図りながら店舗等や低層共同住宅を主体とした立地を図る。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 工場（店舗等の内に附設される作業場を除く。） イ ポーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場又はバッティング練習場 ウ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの エ カラオケボックスその他これに類するもの オ ホテル又は旅館 カ 自動車教習所 キ 畜舎
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.2m以上（a） - すべての道路の隅切…1m以上（b） - すべての隣地…1m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア＋イが5m以下のもの ③ 物置その他これに類する用途に供する建築物で、その外壁等の面が敷地境界線より1m以上離れたもの 
高さの最高限度	10m
形態又は色彩その他の意匠の制限	1. 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 2. 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 (1) 美観・風致を害さないものであること (2) 自己の用に供するものであること
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・ 生垣 ・ 透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 
用途地域（容積率/建ぺい率）	第2種住居地域（200%/60%）

制 限 表

整備計画名	⑪ 天文台周辺B地区
土 地 利 用 方 針	天文台の環境との調和を図りながら一戸建住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
用 途 の 制 限	下記の建築物は建築できません。 ア 工場 イ ポーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場又はバッティング練習場 ウ マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの エ カラオケボックスその他これに類するもの オ ホテル又は旅館 カ 自動車教習所 キ 畜舎 ク 店舗等
敷 地 面 積 の 最 低 限 度	200㎡（警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての隣地…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア＋イが5m以下のもの ③  部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車車庫を除く。） 
高さの最高限度	10m
形 態 又 は 色 彩 そ の 他 の 意 匠 の 制 限	1. 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 2. 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 (1) 美観・風致を害さないものであること (2) 自己の用に供するものであること (3) 表示面積の合計が1.0㎡以下であること
垣 又 は さ く の 構 造 の 制 限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.8m以下の透視可能な金属さく等によって植栽を施したものでなければならない。ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・ 生垣  ・ 透視可能な金属柵等によって植栽を施したもの 
用 途 地 域 (容積率/建ぺい率)	第2種住居地域（200%/60%）

制限表

整備計画名	⑫ 天文台周辺C地区
土地利用方針	天文台の環境との調和を図りながら一戸建住宅を主体とした良好な居住環境の形成を図る。
用途の制限	下記の建築物（専らその用途に供する建築物及びこれに附属する建築物に限る。）以外は建築できません。（警察官派出所等を除く。） ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋 エ 老人ホーム、保育所、福祉ホームその他これらに類するもの オ 老人福祉センター、児童厚生施設その他これらに類するもの カ 診療所
敷地面積の最低限度	200㎡ （警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 - すべての道路（隅切を除く。）…1.5m以上（a） - すべての道路の隅切…1.3m以上（b） - すべての隣地…1.3m以上（c） 緩和規定 ① 自動車車庫 ② 図ア+イが3m以下のもの ③ 図部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車車庫を除く。） 
形態又は色彩その他の意匠の制限	1. 道路等に面する擁壁は、自然石を用いるなど、美観を害しないものとする。 2. 屋外広告物は、次の各号に該当しなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 (1) 美観・風致を害さないものであること (2) 自己の用に供するものであること (3) 表示面積の合計が1.0㎡以下であること
垣又はさくの構造の制限	道路等に面して設ける垣又はさくは、生け垣とするか、又は高さ1.5m以下の透視可能な金属さく等に沿って植栽を施したものでなければならない。ただし、階段や自動車車庫等に設ける転落防止の用に供する透視可能なさく等を除く。 ・生垣  ・透視可能な金属柵等に沿って植栽を施したもの 
用途地域（容積率/建ぺい率）	第1種低層住居専用地域（60%/40%）

制 限 表

整備計画名	⑬ 公益施設地区
土 地 利 用 方 針	地域住民のための水道施設の立地を図る。

※上記⑬の土地利用方針のみが定められた区域内で建築物の建築または工作物の建設の行為を行う場合、「地区計画の届出」を行う必要はありません。

用語の解説

※本地区では使用されていない用語も含まれております。

用 語	用語の解説
法	建築基準法
令	建築基準法施行令
風 営 法	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）
一 戸 の 住 宅 の 用 途	兼用住宅に係る住宅の用途を含む。
住 宅	一戸の住宅の用途に供する建築物で、兼用住宅以外のもの
兼 用 住 宅	一戸の住宅の用途に供する建築物で、住宅以外の用途を兼ねるもの
店 舗 等	店舗、飲食店又は事務所
学 校	学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
専 修 学 校	学校教育法第124条に規定する専修学校
各 種 学 校	学校教育法第134条第1項に規定する各種学校
老 人 福 祉 施 設 等	老人福祉法（昭和38年法律第133号）の規定に基づき設置される老人福祉施設及び有料老人ホーム
児 童 福 祉 施 設	児童福祉法（昭和22年法律第164号）の規定に基づき設置される児童福祉施設
サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅	高齢者の居住の安定確保に関する法律（平成13年法律第26号）第5条第1項に規定するサービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅
サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅等	サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅その他これに類するもの又は児童福祉法第6条の3第8項に規定する小規模住居型児童養育事業、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第5条第17項に規定する共同生活援助、介護保険法（平成9年法律第123号）第8条第20項に規定する認知症対応型共同生活介護若しくは同法第8条の2第15項に規定する介護予防認知症対応型共同生活介護若しくは地区内の施設の従事者及びその家族若しくは入院患者の家族の居住の用に供するもの
薬 局	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）第2条第12項に規定する薬局
店舗型性風俗特殊営業	風営法第2条第6項各号に掲げる営業
第 二 石 油 類	消防法（昭和23年法律第186号）別表の備考14に規定する第二石油類
自 転 車 等 駐 車 場	仙台市自転車等駐車場の附置及び建設奨励に関する条例（昭和62年仙台市条例第12号）第2条第2号に規定する自転車等駐車場
警 察 官 派 出 所 等	警察官派出所、公衆便所その他これらに類する建築物で公益上必要なもの
平家建の附属建築物等	平家建の附属建築物又は門若しくはへい
整 備 計 画 区 域	地区整備計画が定められた区域
都 市 再 生 特 別 地 区	都市再生特別措置法（平成14年法律第22号）第36条第1項の規定により定められた都市再生特別地区
指 定 容 積 率	都市計画法第8条第3項第2号イの規定により定められた建築物の容積率
隣 地	公園、緑道、地区施設用地、鉄道用地、水路、公共空地その他の隣地
道 路 等	道路若しくは緑道
外 壁 等	外壁又はこれに代わる柱
ひ さ し 等	ひさし、屋根その他これらに類するもの
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 造 等	コンクリートブロック造、補強コンクリートブロック造、石造、レンガ造その他これらに類するもの
擁 壁 等 の 笠 石	擁壁の笠石又は道路等に沿って設けられている笠石